**「欲望と解脱」**

2019年1月20日

シュリー・サーラダー・デーヴィー生誕祝賀会（午後の講話）

スワーミー・メーダサーナンダによる講話

於・逗子本部別館

ホーリー・マザーの真の人物像を話すのは大変難しいものです。人は自らが体験したことでないと正しく話すことはできませんね。去年のホーリー・マザー生誕祝賀会では、マザーの教えをいくつか取り上げてお話ししましたが、今年も同じようにマザーの教えについて考えてみます。まず初めに、皆さん、マザーの特徴は何だと思いますか。少し時間を取りますから、一人ひとり考えを整理してください。そうでないと、皆さんが「私も同じです」という答えになってしまいますから。（笑い。）

では、意見を聞いてみましょう。

（参加者）ホーリー・マザーが、自分は良い人のお母さんであるだけでなく全ての人のお母さんである、と言ったことを、私はかみしめています。

（参加者）マザーはとても霊性が高いと思いますが、あえて普通のレベルにとどまり信者や家族のために「お母さん」として生涯を送られました。

（参加者）マザーはご自分の大変高い霊性や神秘性を隠していらっしゃり、霊性の高いお坊さんでなければその偉大さが分からず、普通の人には自分と全く変わらないと思われていました。

（参加者）とても慈悲深い方でした。食事を出しているときに、食べ物を投げつけて給仕している人がいるのを見て、「そのような失礼な態度を取るのなら、私に食事を渡してください。私からこの方に差し上げます」と言われました。マザーは、どんな人も差別することなく優しく接する方だったと思います。

今の話は、イスラム教徒の人に食事を出したときのことですね。マザーの親戚はブラーミン（最も高いカースト）の人たちだったので、イスラム教徒には触らないのが普通でした。だから、投げるようにして食べ物を渡していたのですが、ホーリー・マザーは、このような態度を取るのは良くないとおっしゃったのです。

（参加者）私は、マザーがとても静かな方だと以前に聞いたのを思い出しました。また、個人的に、シュリー・ラーマクリシュナとホーリー・マザーは一つだったと思います。

（参加者）マザーは、小さい頃は清らかさに憧れていた人、ドッキネッショルにいた頃は謙虚さそのもので全てを主に委ねていた人だった思います。また、慈悲の権化だったと思います。

**マザーのみ遊び**

マザーの従者だったお坊さんの中に、出家の道を離れて結婚し家住者として暮らすようになった人がいました。さて、シュリー・ラーマクリシュナの直弟子のスワーミー・サーラダーナンダジーはマザーのお世話をしたお坊さんで、最後にはラーマクリシュナ・ミッションの事務総長（General Secretary）になった方ですが、このサーラダーナンダジーがベナレスの支部を訪ねたときのことです。ベナレスのお坊さんの一人が、元従者のお坊さんをマザーが心から愛していたのを知っていたので、僧団をやめたのになぜマザーはそのお坊さんを助けたのかとサーラダーナンダジーに尋ねました。この問いにサーラダーナンダジーは少し困惑した表情を見せましたが、すぐに歌で答えを返しました。

楽しむことがお好きなマザーの「み遊び」を見るにつけ

私は実に驚く

何年もマザーのおそばにいて

あちこちお供しているのに

マザーの神秘は計り知れない

この世界はマザーのみ遊び

創造なさった途端、破壊なさる

まるで自分の作った物を壊して遊ぶ子供のようだ

マザーのみ遊びは誰とも違う

私に分かるのはここまでだ

私は実に驚く

楽しむことがお好きなマザーのみ遊びを見るにつけ

歌が終わるとサーラダーナンダジーは、家住者になった僧侶を落伍者だと思う人もいるかもしれないがマザーがどのように弟子に教えを授けているかは誰にも分からない、とおっしゃいました。「本当に、誰にも分からないのだ！あの僧侶はもしかしたら私たちの誰よりも早く進歩したのかもしれない。マザーのなさり方は誰にも分からないのだ」

先ほど、マザーは霊的レベルがあまりにも高くそのすごさに気づいた人はわずかだったという意見がありましたね。実はこれは良いことだったのです。もしそうでなかったらマザーは自由に動き回ることができなかったでしょう。マザーの本性に気付かなかったから、皆気軽にマザーに近づくことができたのです。一方で、スワーミージー（ヴィヴェーカーナンダ）やブラフマーナンダジー、プレーマーナンダジーのような、シュリー・ラーマクリシュナの直弟子である霊性の偉人は、マザーの偉大さに気付いていたので気軽にマザーに近づいて話しかけることはしにくかったのです。

（ここでマハーラージは『霊性の師たちの生涯』（協会刊）「第二部サラダデヴィの生涯」の「言葉の断片」を読み上げる）

12　欲望から、この肉体は生まれるのです。全く欲望がなければ、肉体は死にます。欲望が完全にとまれば一切の終わりが来ます。

13人が欲望を持っている限り、かれの転生は終わりません。欲望ひとつが、かれに次々と肉体をとらせるのです。欲望のある間は再生を避けることはできません。

**欲望の種**

ホーリー・マザーのこの教えについて考えてみましょう。ある時マザーは、（意識と潜在意識の両方の領域において）あらゆる欲望が完全に無くなれば私たちはこの瞬間にでも解脱できる、とおっしゃいました。しかし内省してみれば、欲望を全て無くすのがどれほど難しいかわかります。

私たちにはこれまでのいくつもの前世において欲望から生まれたカルマがあり、このカルマは今生か来世で消化していかねばなりません。だから私たちは再生するのです。念のため言いますが、何度も何度も生まれたい方にはこの話は必要ありません。しかし再生を望まない方にはこの話はとても大切です。ですからまず自分はどっちなのか決めてください。（笑い。）中には、欲望を減らしたくなく再生もしたくないという人もいるでしょう。そういう人はどうすればいいのか私には分かりません。胃腸が弱っているのを治したいけれど食生活を変えたくないというようなものですから。

ほんの小さな種からとても大きな木が育つものですが、欲望も同じです。欲望の木が育つのを止めるにはどんなに小さな種も燃やしてしまうしかありません。種は常に生まれ続けますからこれを燃やすには大変な努力が必要です。いつも気を付けて、とにかく戦うしかありません。野菜の根は短くて簡単に土から引き抜くことができますがバンヤンのような大木の根を想像してみて下さい。根っこがどのくらい広く深く伸びているか土の上から見ただけでは分かりませんが、いざ木を抜こうとするとよく分かりますね。私たちの欲望はこのような大木の根のようなものです。

深く根付いた欲望を引き抜くことはできないのでしょうか。そんなことはありません。これには識別がとても大切です。私たちが何かを願ったり、想像したり、夢見たりすると、欲望が意識の中を占める割合が大きくなります。しかし私たちは、このような思いを心に持つことで欲望がどれほど多くどれほど強く意識の中に根付いてしまうか、ほとんど気付いていません。ですから、まず現在の状態に気付く必要があります。自分が再び生まれてきたくないのはなぜなのか。無限に繰り返される再生から解放されたいのはなぜなのか。この点をはっきりさせなければ、この大変な仕事に取り掛かることはできません。気付くことから全てが始まります。

そこでまず、ここにいる皆さんが「再生したくない」グループAなのか、「再生したい」グループBなのかを聞きたいと思います。

（参加者）グループCはないのですか。（笑い。）グループCと言ったのは、私は長く生きてきましたから、死ぬときにはもちろん主に全てをお任せします。でも、その時までに何とか解脱したい、死ぬ瞬間に解脱の状態になったときに、主よ、思し召しのままになさって下さいと言いたいです。もし、ここにまた戻ってきなさいと言われたら、喜んで受け入れます。この世に80年近く生きてきて、人生の99%までが苦しみ、悲しみ、辛いことで、たまに少しだけ楽しいことや幸せだなあと思うことがありました。私のカルマを償却させるために、神様はこうやっておられるんだなと思います。でも、もういい、静かになりたいです。だから解脱したいです。

**解脱の理由**

ほとんどの信者さんが解脱したいと言います。ではなぜ解脱を望むのでしょうか。この世は苦しみに満ちていると仏教で言われるように、本当に、一切は苦しみで再生しても同じ経験を繰り返すだけです。ですから、このような辛い人生はもうたくさんだという理由から解脱を望む人がいます。

また、失われることのない喜び、無限の喜びを求めて解脱を望む人もいます。この世に何度生まれてきてもこのような喜びを経験できない、解脱だけが唯一の方法だということに気づいて、解脱を強く求めるようになるのです。

さらに、自由を求めて解脱を望む人もいます。経済や政治、宗教、社会など自分の外側は自由であっても、それだけでは絶対の自由とは言えず、私たちには様々な束縛があります。例えば、私たちは自分の肉体の奴隷で、肉体を維持するために必要なことをやり続けねばなりません。また、私たちは感覚の奴隷であり、心の奴隷でもあります。自身の奥深くにあるサムスカーラ（前世から持ち越された傾向）に左右されています。偉大な宗教はどれも、私たちを縛る鎖について語っていますね。

飾りのついた小さな鳥カゴの中に鳥が一羽いるのを想像してみてください。または、この鳥はとても大きな鳥カゴの中にいて、そこには木が生えていて果物やエサや水が置いてあり、他にも鳥が何羽もいるのを思い浮かべてみてください。鳥は自然の環境にいたことがなく、カゴの外に出て大空を飛んだこともないので、自分がカゴの中にいることにすら気付いていないのです。

この大きな鳥カゴの鉄の柵一本一本は、私たちの今生のサムスカーラと同じだと言えます。一本一本が欲望や執着、行為の結果などでできています。柵が鉄であろうが金や銀でできていようが柵であることには変わりありません。カゴの中にいて束縛されていると、自分が縛られているなどとはほとんど思いません。頭上高くにある空をたまたま見上げたとき、自分の本当の居場所はあそこだと感じて飛び立ちたくなります。しかし執着や欲望やサムスカーラでできた柵があるためカゴから出られません。人の潜在意識の中にはサムスカーラが実にたくさんあるのです。欲望がなくなった瞬間に解脱する、とマザーがおっしゃったのにはこのような理由があるのです。

解脱を望む人を解脱したい理由で分けるとバクタ（Bhakta）、ギャーニ（Jnani）、ヴィッギャーニ（Vijnani）の3種類があります。最低限必要なことは、再び生まれて肉体に入ることを望まずに永遠に神様のそばで暮らしたいと思うことです。天国に行きたいとか、楽しいことがたくさんある場所に行きたいとか一切考えないで、シュリ－・ラーマクリシュナ、お釈迦様、キリストなど自分のイシュタ（理想神）のそばにいて「砂糖を味わう」ことだけを強く望んでください。

このように神のそばにいることを望むがバクタで、これは解脱を求める最初のレベルです。次がギャーニで、ギャーニは神様あるいはブラフマンと一つになることを望みます。川が海に流れ込んで一つになるように、自身が絶対の真理と一つになることを望みます。では、ヴィッギャーニとはどのような解脱を望んでいるのでしょうか。まず真理を悟り、その後降りてきて神の至福を味わうという望みです。言い換えると、バクタは砂糖を味わいたい。ギャーニは砂糖になりたい。ヴィッギャーニは砂糖になった後に砂糖を味わいたいのです。皆さんはどのタイプでしょうか。

**終わりに**

どのような理由から解脱を求めても構いません。苦しみたくないからでも、絶対の至福や自由が欲しいからでもいいのです。ただ、とても強く求めることが大切です。表面的な気持ちや気軽な考えで求めるのでは十分ではありません。自分の選んだ道を歩いて解脱というゴールにたどり着くだけの強い心構えが必要なのです。